

# かかずっこだより

## チャレンジあそび

運動遊びを中心に「少し頑張ればできる」遊びに挑戦する「チャレンジあそび」が始まりました。挑戦する心や達成感を育てていきたいと考えています。



## 人形劇 やりたい

朝外に行く前、年長の女の子達が「人形劇をやりたい」と言い、「ソーシャルディスタンス!」と言いながらホールに椅子を並べ始めました。朝のお掃除の後やるとのこと。6歳にして、見通しをもって生活しています。素晴らしい子ども達です



チケットを作る子もいました。なぜか、みんな「33番」。最初は部屋にあるバベットを使っていましたが、翌日は、紙で人形を作って使っていました。年中さんも喜んで見てくれましたよ。



## お楽しみ会 ~23日

お楽しみ会をクラスごとに行いました。何をやりたいか話し合い、それぞれ楽しい会になりました。椅子取りゲームやフルーツバスケット等ルールのある遊びも出来るようになってきました。



## 「気になる姿」から考える、子育て10か条 その3

～言語聴覚士・精神保健福祉士 湯汲英史 氏～

### 5. あきらめられない子ども

- 「しかたがない」とあきらめることができない
- 「たぶん」と言わない
- 「～かもしれない」をつかわない
- あきらめられず泣き騒ぐ
- 自己主張が強い



#### 「あきらめる」心をはぐくむ

子どもは3歳ごろから作ったものなどが壊れたり、なくしたりしたときに、「仕方がない」とあきらめられるようになります。あきらめられない子には、「残念」「仕方がない」と声をかけて、気持ちをコントロールできるようにする必要があります。

ことばの発達では、4歳過ぎから「～かもしれない」ということばが分かってきます。お店に行って、ないときに騒ぐ子には「ないかもしれない」とはなしておく必要があります。また、子どもは「たぶん」を使い出したら、出来事に対して柔軟に対応できるようになります。予定の変更などができにくい子どもには、「たぶん」や「～かもしれない」ということばを教えるようにしましょう。

### 6. 約束・ルールを守れない子ども

- 決められた約束事を守れない
- あそびのルールを守れずに自分勝手な行動をとる
- 自分のやりたいことができないと怒る
- 指示に対して拒否する



#### マイ(my)ルールからアワー(our)ルールに

もともと子どもは、目に見えない「ルール」の理解には時間がかかります。そんななか順番は、目で確認できるのでわかりやすいルールのようなのです。何らかの活動を行う時に、順番を意識できるようにするとよいでしょう。

4～5歳で約束ができるようになると、一方的な指示に従わない子どもが出てきます。その場合は、「〇〇の後に～するよ」「10 やったらおしまいね」「長い針が〇まできたら～しよう」というように約束を決めて、それに従うように伝えていきます。特に男の子の場合は、回数や時間など数で示される目安が有効なようです。約束をすることで、マイルールからアワールールにしていきましょう。

続きは次号にて…